

2013 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名[兵庫県立芦屋国際中等教育学校] 担当教諭名[岩見 理華・野村 真理・武田 ひとみ・朝間 誠悟] (3年A組39名)
 交流相手国[台湾]
 海外学校名[Guei-ren Junior High School] 担当教諭名[Pei-Fen Cho (Colleen)]

■実施教科・時間数について教えてください。

アートマイルに関連した 実施教科・時間数	教科	単 元 名	時間数
	総合的な学習の時間	国際理解	
	学級活動	国際理解	8

■作品について教えてください。

題 (テーマ)	伝統行事(日本の祭りと台湾の成人式)
絵に込めたメッセージ	日本側は、地域ごとの代表的な祭りについて、台湾側は、16歳の成人式のいろいろな場面や衣装などを描いて、互いの国の伝統行事を1枚の絵に表現しました。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習のプロセスを、成果物として1枚の絵に完成させるという明確な目標があったため、手紙の交換、テレビ会議等それぞれの活動に意味を持たせることができた。 ○ 英語や絵を描くのが得意な生徒を含む「アートマイル実行委員会」を立ち上げ、それぞれの生徒の特技や個性を活かして活躍する場を設けることができた。絵のデザインを考える際は、実行委員を中心にクラスで話し合い、最終的に相手校と代表者同士テレビ会議で決定することができた。 ○ 調べ学習等お互いの学校で進めた学習の成果をテレビ会議で共有することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師同士、相手校とはメールで活発にやりとりをすることができたが、JAMより提供されたフォーラムを十分に活用することができなかった。教師監督のもと、生徒たちにフォーラムを使用した交流活動を計画すればよかったと思う。 ○ 本校は英語母語話者や英語圏からの帰国生徒を多く受入れているので、英語を交流言語とした手紙の交換やテレビ会議は、実行委員の生徒によって主体的に進めることができた。しかし、英語が苦手な生徒が英語ができる生徒に頼りすぎて積極的に英語を使って交流することができなかった。

■アートマイルの活動を周りにお知らせしましたか？ 周りの反響はどうでしたか？

担当教諭や子どもたちによる広報	校内・保護者や地域の方からの反響
<ul style="list-style-type: none"> ○ 学年だより、PTA 広報誌、学校のホームページ、メールマガジンで活動進捗状況や、完成作品の紹介を行った。 ○ 地元新聞社の取材を受け、地域版にカラーで掲載された。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動に参加した生徒はもちろんのこと、鑑賞に来ていただいた保護者からも、「すばらしい取組である」と評価していただいた。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科
導入	7月 9月	JAM代表塩飽隆子氏の講演会 自己紹介カードの作成 台湾側へ剣玉や紙風船などの日本文化を紹介する贈り物と自己紹介カード(夏休みの宿題)の送付	講演会で実際の活動の様子を聞くことで9月から始まる交流への意欲が高まり、自己紹介カードの作成にも熱心に取り組んでいた。	総合2 学活1 夏休み
情報収集	9月	台湾側との絵のテーマについての調整(教員同士) Skype登録、Webカメラ等テレビ会議にむけての環境設定 教員同士のテレビ会議テスト テーマについての調べ学習 テレビ会議の練習	インターネットを活用し、積極的に調べ学習に取り組んでいた。 テレビ会議の本番に向け、伝え方を工夫し、熱心に練習に取り組んだ。	総合2
テーマ検討	9月 10月 11月	台湾側と絵のテーマについての調整(教員同士のメール交換及びテレビ会議) 自己紹介のテレビ会議 絵のデザインについて代表生徒によるテレビ会議 日本側テーマについて説明する調べ学習とテレビ会議	テレビ会議で、自分たちが伝えたことに対して相手から反応があったことで、ますます交流に対する意欲が高まり、調べ学習にもよりいっそう積極的に取り組むようになった。	学活3 総合3
制作	12月	下絵準備及び色付け作業 特別支援学校の生徒と共同制作 クリスマスカードの交換	自分の役割に責任を持ち、作業に参加することができた。 特別支援学校の生徒に制作してもらう方法について工夫がみられた。 テレビ会議で直接交流することができたので、より親しみを持ってカードを作成することができた。	放課後 学活2
鑑賞	2月 3月	相手国側から完成した絵について説明するテレビ会議 学年集会での鑑賞、地元新聞者の取材、修了式に保護者を招待して鑑賞、後に校内に展示 相手校へお礼の手紙の送付	テレビ会議で完成作品を見せてもらい、説明をしてもらう中で積極的に質問をすることができた。 実際に完成作品を手にするので、より大きな達成感を味わうことができ、感謝の気持ちを手紙に表すことができた。	学活2

■学習目標(つけたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入(A:特に重視した B:重視した C:特に重視しなかった)

「成果」先生の手応え(5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった)

学習目標・つけたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	A	5	日本各地の伝統的な祭りについて熱心に調べていた。
異文化の理解	A	4	学校の様子や伝統行事について相手国側のビデオを見たり、テレビ会議を行った際、積極的に参加していた。
コミュニケーション力 (説明・共感・英語)	B	4	特にテレビ会議では、自分たちのメッセージを効果的に伝える方法を熱心に考えていた。
情報活用能力 (情報収集・発信)	B	3	インターネットで相手国の概要について調べることはできたが、テーマ(台湾の成人式)についての情報が少なかった。
人間関係をつくる (学級内・交流相手)	A	4	実行委員会を中心に生徒主体で活動を進めることができた。絵の完成という目標達成のためにクラスが1つになって取り組めた。
協働する力 (役割分担・協力)	A	5	それぞれの生徒が自分の個性や特技を活かして様々な場面で活躍することができた。
学習を追究する意欲	B	4	絵の完成後も相手国についてもっと知りたいと思うようになった。
表現力 (伝えたいことを絵で表す)	A	5	手紙やテレビ会議で話し合ったことを絵に反映させられるよう工夫していた。
作品を鑑賞する力	C	3	完成した絵の披露と相手校へのお礼の手紙だけで終わってしまい、お互い活動のふりかえりができなかった。